



三条別院のご案内

三条別院に想う

「正覚大音 響流十方」 正覚の大音、響き十方に流る。

住職修習で本山へ行った時「朝がね」をつくことが話題となりました。「最近では、衝いてもだれも（晨朝に）お参りされないから衝くのをやめましたというお寺が多くなつたけど、寺の晨朝にお参りされなくても大勢の方がその響きを聞いて下さっているもんですよ。」「布団の中できいている人もあれば、鐘の音を合図に勤めへ出かける人、犬の散歩に歩きながら聞いている人、折に触れ声をかけて下さる。いろんな人の生活の中で響いていくもんですよ」という数名の方のご意見に励まされ、すすめられ、重い腰を上げて数年が経ちます。

所用で三条宿泊のおり、朝目が覚めると別院の梵鐘がなっていました、自分の寝室でないことに気づき我に返ってほつとして、あらためて聞いていると、その力強さに思わず聞き入ってしまいます。静かな三条の朝に別院の「ひびき」が広がっていくように思えてきます。

七時の晨朝にお参りしてこうと本堂から入ると、もう数人の方が座っておられました。しずかに晨朝のお参りが勤まり、和やかな雰囲気の中で列座Sのおだやかな法話がつづきます。

三〇〇余年の間、教区の中で「三条のご坊様」と親しまれてきたのは、にぎやかな「お取越し」のお参りももちろんそうですが、こうして毎日しずかに勤まるお勤めと、たえず開かれる聞法の法座など、

そこに集う人々の出会いの場となり、聞法の場となつて大勢を育んできた、本願念仏の教えを伝える道場の「ひびき」がつたわつたものなのだろうと思います。

（第二十組 松韻寺 關根 大丘 氏）

〇次回の「三条別院に想う」は、

安原陽二氏（第十二組 安淨寺）より

ご執筆いただきます

■別院声明教室が開講します

今年、別院声明教室が二月より始まります。毎日のお勤めを学びたい方、これから得度を受けられる方、研鑽を積みたい方、是非一緒に学びましょう。

◇開催日

二月十九日（水）、三月十九日（水）、四月十六日（水）、五月二十一日（水）六月十八日（水）



【講師の中富氏】

- ◇時間 午後六時より午後八時まで
- ◇会場 教区同朋会館（三条別院内）
- ◇講習内容 正信偈 草四句目下 念仏讃 淘三

和讃 弥陀成仏のこのかたは 次第六首

回向 願以此功德

- ◇講師 中富正純氏（第二十三組 福照寺）
- ◇持ち物 『真宗大谷派勤行集』または 『大谷聲明集 上』、念珠、筆記具

◇参加費 五〇〇円/回

参加希望者は二月十二日（水）までに別院までご連絡ください。

■別院子ども奉仕団IN木揚場教会

三条別院ではお釈迦様の誕生日（四月八日花まつり）、親鸞聖人の誕生日（四月一日）にあわせて、子ども奉仕団・お誕生法要を毎年開催させていただいております。初めて会う友達と共に、お寺に触れていただくことで、「いのちの大切さ・本当の私」について考えられるような、楽しい奉仕団を目指しております。

本年は、親鸞聖人七百五十回御遠忌記念事業の本堂修復工事が行われており、会場を新潟市の木揚場教会（明治時代に東本願寺を再建する際の献木を集積した場所で国登録有形文化財）にて行います。



【今年は木揚場で待ってるよ！】

- ◇開催日 四月二日(水)～三日(木)
- ◇対象 小学校新三年生～六年生
※現在小学二年生～五年生の方
- ◇会場 木揚場教会(新潟市中央区礎町)
- ◇集合場所 三条別院(現地集合可)
- ◇締切 三月十日(月) 必着
- ◇定員 四十名
(内十名東日本大震災被災地からの招待)

詳細は案内チラシをご参照ください。

■御命日(二十八日)の集い・年頭会

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に、「御命日の集い」を本堂にて、日中法要と法話、その後、座談会の場を開いております。本堂修復に伴い、一年間仮本堂(同朋会館二階)でのお勤めとなります。どなたでもお参りいただけます。皆様のご参詣をお待ち申し上げます。



【鷲尾輪番による年頭の法話がある】

また、今月は「年頭会」と兼ねるため、座談会をお休みさせていただきますので、ご了承ください。なお、前日(二十七日)はお速夜法要を、午後一時三十分よりお勤めをしております。

【二月二十八日(金)】

- 午前十時 お勤め(御命日 日中法要)
- 正信偈 草四句目下
- 念仏讃 洵三
- 和讃 回口 次第六首
- 回向 願以此功德

◎今月の法話講師

鷲尾 幸雄 (三条別院輪番)

◇今後の講師一覧

- 三月 柄倉 廣由氏 (第二十組 慈光寺)
- 四月 渡邊 智龍氏 (第十八組 恩長寺)
- 五月 小林 智光氏 (第十二組 淨照寺)
- 六月 土屋 真氏 (第十五組 淨照寺)

■定例法話会のご案内

毎月十三日には、「両度の命日」と呼ばれている前門首のご命日です。また、蓮如上人も御文の中で、この「両度の命日」についてお書きになられています。(四帖目十二通)

旧御堂にて開催していただきましたが、改修工事に伴い、一年間仮本堂(同朋会館二階)での開催となります。皆様、お気軽にお越しください。



【2月～4月の講師藤波師】

ださい。

- ◇日時 毎月十三日 ※八月、一月は除く
午後一時三十分より(二時間程度)
- ◇場所 三条別院 仮本堂
- ※会場は変更になる場合があります
- 二月～四月
藤波龍英氏(第十八組 西入寺)
- 五月～七月
井上 正氏(第十組 受徳寺)

■別院書道教室のご案内

書道教室受講生を追加募集いたしますので、ご希望の方は是非ご連絡ください。

- ◇開催日 毎月二回(第二、第四水曜日)
- ◇時間 午後六時三十分～八時
- ◇講師 木原 光威氏(新潟県書道協合理事)
- ◇持ち物 筆(大・小)、硯、下敷、文鎮、墨液、半紙、新聞紙
- ◇月謝 二五〇〇円(テキスト代含む)

■別院奉仕研修について

先達の篤き御懇念によつて護持されてきた三条別院にお越しいただき、その歴史に触れていただくとともに、現代の様々な問題を抱える私たちが、真宗門徒として親鸞聖人のみ教えに出遇う、そのような奉仕研修会を開いてみませんか。ともに語り合い、人間として生きる意味を尋ねていく場となればと考えております。

○日程及び内容について、ご要望等ございましたらご相談承ります。

○奉仕研修会を参加いただく方(団体)の、冥加金は左記のとおりです。

◎冥加金

- ・日帰り 一、五〇〇円
- ・一泊二日 二、五〇〇円

◎食事代(昼・夕食は業者発注のため)

- ・朝食代 五〇〇円
- ・昼食代 一、〇〇〇円程度
- ・夕食代 一、三〇〇円程度

■同朋会館に宿泊される方へお願い

同朋会館に宿泊される方は、宿泊当日に同朋会館一階の事務所にございます宿泊者帳に記帳してください。その後、シートクリーニング代五〇〇円とシーツを交換させていただきます。

なお、宿泊される方は、翌朝七時より仮本堂にて晨朝が勤まりますので、お参りいただきますようお願い致します。

■三条別院巡回について

かつて三条別院の御影をお迎えし、各ご門徒のお宅で聞法会が頻繁に行われておりました。しかし、時代の流れや、世代の交代で今では数えるほどしか行われていません。ご門徒の皆様をはじめ有縁の方にご案内いただき、三条別院巡回がより多くの方々のお念仏をいただくご縁となりますことを、願っております。

※巡回の曜日・時間等はできるかぎりご都合に

合わせますので、お気軽にご相談させていただきます。

※現在、宗祖真向御影巡回を行っております。ご希望の場合は組長経由で、ご相談ください。

■三条別院有志の会について

三条別院では「三条別院有志の会」という集いを持ち、法話や座談会(茶話会)など、近隣の方をはじめ、有縁の方にお集りいただいております。現在十余名の有志の皆様によって活動しておりますが、「三条別院有志の会」では、より多くの方にご参加賜りたく、新たな参加者を募っております。お気軽にどなた様でもご来院くださいますよう、ご案内申し上げます。お問い合わせは三条別院まで。

■退任・新任のご挨拶

このたび、長らく勤務しておりました三条別院を十二月二十日付けにて退職することになりました。在職中、皆様の方ならぬご厚情を賜り深く感謝しております。

今後は、自坊で、また三条教区の一員として勤めていく所存でございます。なお、非常勤嘱託として別院の法務にも携わらせていただきますので、何卒今までと変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

先ずは、略儀ながら書面をもちましてご挨拶申し上げます。

前会計兼列座 大滝 充弘



十二月末から別院会計として勤めはじめました有坂次郎です。寺族ではありません。在家です。三条真宗学院の二期生として同朋会館あたりをウロチョロして、いつの間にか準構成員みたいな顔をしておりました。

ろ、はからずも大滝さんの後任としてお声が掛かりました。気を良くしてお引き受けしたのですが、私もあと数ヶ月で六十五歳。露命わずかに枯草の身にかかりて、と述懐すべき年頃であることを失念しておりました。もと金融機関に勤めていたことを買われたようですが、人事の仕事などしたことがなく、パソコンも苦手であります。しかし、「他人に出来たことは自分も出来る」の気楽な信念のもと精一杯努めさせていただきたいと思っております。ご指導よろしく願います。

会計 有坂 次郎

◇◇編集後記◇◇

別院・教務所職員の異動があり、別れと出遇いに情を動かされながら、職員間の引き継ぎ等で落ち着かない日々を送っているが、そんな中で別院に残され仕事を荷っていく、自分の器の小ささを考える。実によく水が溢れる器である。自分より大きい器に出遇うと飲み込まれたり嫉妬したりより小さい器を探そうとしたり……。けれども親鸞聖人が見たのは、器の大きさ・深さを比べる世界ではないはずである！ 私にだけしか吠えない近所の老犬を前に、そんなことを考える。(S)